

別紙

地域会議への諮問答申の実施について

1 趣旨

- ・豊田市は、持続的で活力ある山村地域づくりと、都市と山村の共生を推進するため、山村条例を制定しました。
- ・条例制定を契機に市民の暮らしの豊かさにつながる山村の魅力や価値に触れてもらうため、山村の自然に触れる機会や暮らしの体験など、都市部と山村地域との交流やつながりを深める機会を増やしたいと考えています。
- ・地域や個人、団体の活動の場を広げることや、地域の課題解決の方策など、山村地域と繋がることで効果が期待できる取組について考えを伺います。
- ・例えば、山村地域の集落の祭りのお囃子を都市部の子どもが参加して演奏したり、山村地域の農家が都市部のお寺の境内を利用して交流をしながら農産物を販売するなど、既に都市と山村の様々なつながりにより実践されています。

2 目的

- ・都市部の市民に山村地域への関心を持ってもらい、交流を促します。
- ・山村条例の理念の実現に向けた今後の取組の参考にします。

3 山村地域現地見学会の実施

- ・答申内容の検討にあたり、山村地域に対する理解を深めていただくため、地域会議役員を対象に【山村地域現地見学会】を実施します。
 - 実施時期・・・9月中旬～下旬
 - 市マイクロバスで送迎
 - 見学の最後に、地域の住民や活動者等との意見交換会を実施

豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例

私たちのまち、矢作川流域でつながる都市と山村が共存する多様な魅力にあふれるまちです。

山村は、豊かな自然を有しており、私たちは自然に生かされるとともに、脈々と継承されてきた自然と調和した人の営みなど、その様々な価値を暮らしに生かしてきました。

戦後の高度経済成長期を経て、山村から都市への人や物の集中が進みましたが、近年では環境意識の高まり、デジタル化など社会環境の変化により、自然豊かな山村への関心が高まるなど山村に係る多様な価値観及び生活様式が生まれています。

例えば、森林や田畑を守ること、^{なりわい}生業を創ることや継承すること、祭りや文化を通して地域とつながること、自然の中で子育てをすること、週末に農園や森に通うこと、米や野菜などの地域の農産物を使うこと、先進技術を融合させた暮らしをすることなどが挙げられます。

私たちは、山村の価値を守り、生かし、分かち合い、その価値を次の世代につなぐため、山村に愛着と誇りを持ちながら日々の暮らしを楽しむとともに、自然と人、暮らしと事業者等、都市と山村がつながり、支え合うことにより、共働の取組として環境、経済及び社会が循環する持続的なまちづくりを推進することを決意し、ここに豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例を制定します。

（目的）

第1条 この条例は、山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生について、基本方針、市の責務などを明らかにし、関連する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、山村の価値を生かした暮らしを市民が実践し、次の世代につなぐことを目的とします。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによります。

（1）山村の価値 次に掲げるものをいいます。

ア 山村における森林、田畑、川、空気、水、生き物などからなる自然環境

イ アに掲げる自然環境の下、継承されてきた景観、人と人とのつながり、営みなど

ウ ア及びイに掲げるものから感じられる幸せ

（2）山村地域 旭地区、足助地区、稲武地区、小原地区及び下山地区の区域をいいます。

（3）市民 市内に居住し、通勤し、又は通学する個人及び市内において事業又は活動を行う個人又は法人その他の団体をいいます。

（4）山村住民 山村地域に居住する個人及び山村地域において事業又は活動を行う個人又は法人その他の団体をいいます。

（5）事業者等 山村地域において事業又は活動を行う個人又は法人その他の団体をいいます。

（基本方針）

第3条 山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に当たっては、次に掲げる事項を基本方針とします。

（1）山村の価値が市民にとって豊かな暮らしの礎であることを理解し、次の世代につなぐこと。

（2）山村に係る多様な価値観及び生活様式並びに都市と山村の多様な関わり方を尊重すること。

（3）年齢や性別を問わない多様な主体と共働による地域づくりを推進し、その担い手となる人材を育成すること。

（4）山村住民の自治を尊重しつつ、山村地域の各地域又は都市と山村が互いにつながり、支え合うこと。

（5）自然環境との調和を基本とし、地域資源を生かした地域内の経済循環を高めること。

（市の責務）

第4条 市は、山村住民の自治を尊重しつつ、共働によるまちづくりを推進するものとします。

2 市は、市民に対し、山村の価値が豊かな暮らしの礎であることについて、理解が深まるよう周知するものとします。

3 市は、都市と山村の交流を促進するものとします。

4 市は、山村地域における安全かつ安心な暮らしを維持するため、その基盤づくりを担うものとします。

5 市は、山村地域の暮らしの土台となる事業者等の事業又は活動を支えるものとします。

（市民の役割）

第5条 市民は、山村の価値が豊かな暮らしの礎であることを理解するものとします。

2 市民は、山村の価値を知ること、見ること又は体験することにより、これを学ぶよう努めるものとします。

3 市民は、前2項の規定を理解し、又は学んだことを生かし、共働により山村を守り、山村の価値を暮らしに生かすよう努めるものとします。

4 市民は、都市と山村が互いに交流し、支え合うよう努めるものとします。

（山村住民の役割）

第6条 山村住民は、前条に定めるもののほか、地域に愛着と誇りを持ち、山村の価値を次の世代につなぐよう努めるものとします。

2 山村住民は、山村地域内の空き家、農地及び森林が地域の共有財産であることを認識し、放置しないよう努めるものとします。

3 山村住民は、山村に係る多様な価値観及び生活様式並びに都市と山村の多様な関わり方を認め、山村地域へ移住する者や当該地域に関わる者を受け入れるように努めるものとします。

（事業者等の役割）

第7条 事業者等は、前2条に定めるもののほか、地域経済の活性化、防災や減災、景観維持などのまちづくりに係る役割を担い、山村地域の暮らしを支えるよう努めるものとします。

（計画の策定及び施策の推進）

第8条 市は、基本方針にのっとり、山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する計画を策定し、総合的かつ計画的に施策を推進するものとします。

2 市は、前項の施策の推進に当たっては、山村地域の現況や地理的特性を考慮するとともに、先進技術を生かしながら行うものとします。

3 第1項の計画は、必要に応じて、その内容を見直すものとします。

4 市は、山村地域に準ずる山地や森林などの自然環境及び小規模集落を有する地域に関し、第1項の計画に準じて施策を推進するものとします。

5 市は、山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する施策を総合的に推進するため、体制の整備に努めるものとします。

（実施状況の公表）

第9条 市は、山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する施策の実施状況について、公表するものとします。

附 則

この条例は、令和4年1月1日から施行します。

山村条例の3つのポイント

①「山村の価値」を定義しました。(第2条)

森林、田畑、川などの豊かな自然環境のほか、山村での暮らしの営みや感じられる幸せなど、市民のみなさんと共通の認識が持てるよう「山村の価値」について定義しています。



②市の責務、市民、山村住民、事業者等の役割を明記しました。(第4～7条)

それぞれの立場で取組が進められるよう、市、市民、山村住民、事業者等の役割を明記しています。



③施策の総合的な推進体制を規定しました。(第8～9条)

市は、必要な取組を総合的・計画的に進めるため、令和2年度に策定した「おいでん・さんそんプラン^{*}」に沿って施策を推進し、取組は毎年度、公表します。



^{*}おいでん・さんそんプランとは、山村地域における今後のめざすべき将来像の実現に向けて、市民と行政が共働で取り組む持続可能な山村地域づくりの方向性を明らかにするための基本となる計画です。



豊かな自然の中での子育て

豊かな山村の風景



人と人とのつながり
顔の見える関係



伝統的な祭りや文化



いやされる森林環境



農ある暮らし



新鮮な農産物
おいしい米や野菜



人の手が入った美しい景観

山村とつながる暮らし
山村の魅力や価値を
豊田市ではみんなで大切に育み
次の世代につないでいきます

問合せ先

〒471-8501 豊田市西町3-60

豊田市 企画政策部 企画課

TEL 0565-34-6602 FAX 0565-34-2192

Mail kikaku@city.toyota.aichi.jp

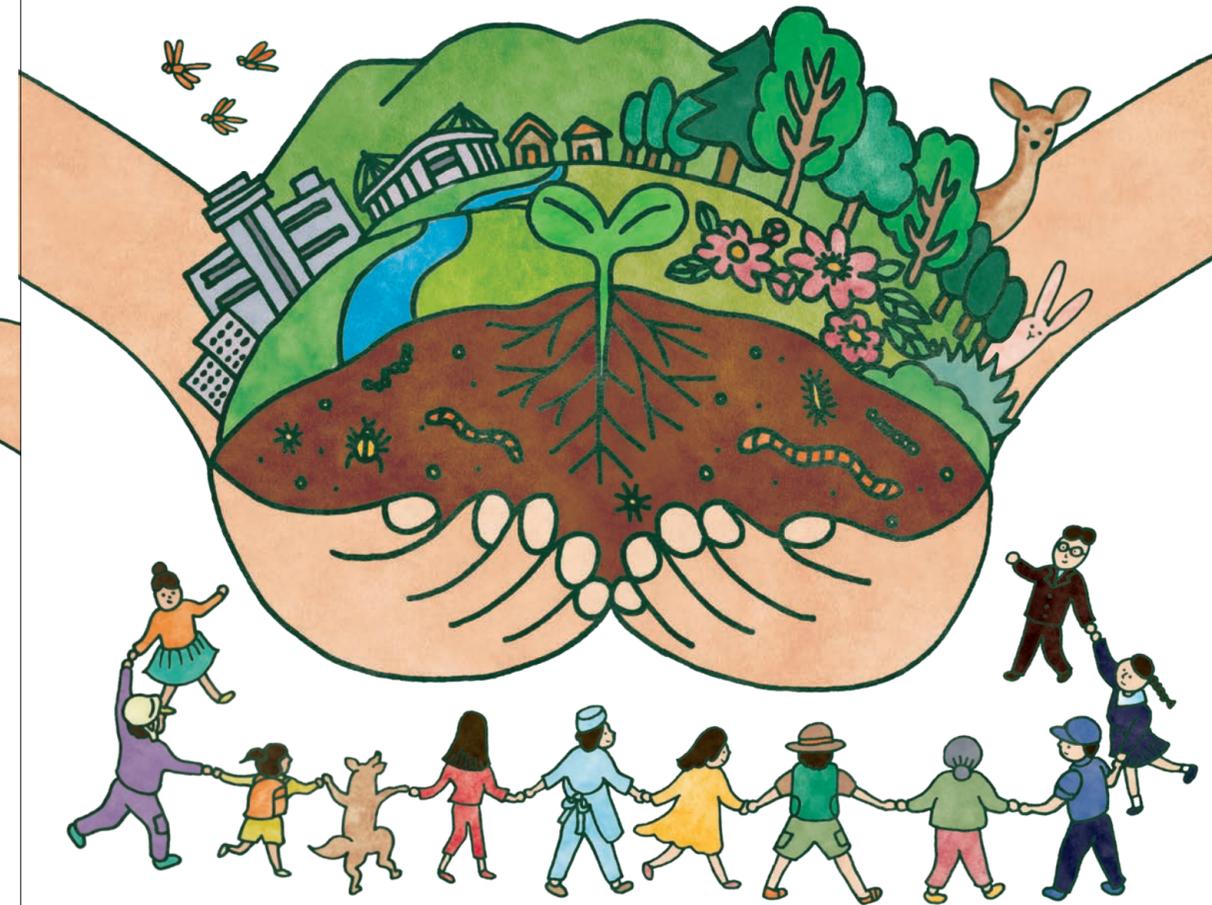


とよたの山村を次の世代に

令和4年(2022年)1月施行

山村条例

豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例



豊田市
Toyota City

山村条例の目的

豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例(略称:山村条例)は、市民の暮らしの豊かさにつながる山村地域の価値を広く共有するとともに、都市と山村が相互に支え合う関係性の中で、市民が山村とのつながりのある暮らしを实践し、次の世代につないでいくことで、持続的で活力ある山村地域づくりと都市と山村の共生による豊かなまちの実現を図ることを目的としています。

山村の価値 (山村の豊かさ)

- 山林、田畑、川、空気、水、生き物などからなる豊かな自然環境
- 自然と共生する暮らしの中から生まれた景観や歴史・文化
- 住民が支え合う風土、暮らしの知恵・手技などの営み
- こうしたもから感じられる心の充足感や安心感、幸せなど

山村条例の構成

前文(持続的な発展及び都市と山村の共生の実現)

- 豊田市は、矢作川流域でつながる都市と山村が共存する多様な魅力にあふれるまちです。私たちは、山村の価値を次の世代につなぐため、都市と山村がつながり支え合うことにより持続的なまちづくりを推進することを決意し条例を制定します。

第1条(目的)

- 基本方針、市の責務等を明らかにし、関連する施策を総合的かつ計画的に推進することで山村の価値を生かした暮らしを实践し、次の世代につなぐことを目的とします。

第2条(定義)

- 山村の価値 ● 山村地域…旭、足助、稲武、小原、下山地区
- 市民…市内に居住または、通勤通学する個人や団体
- 山村住民…山村地域に居住する個人や団体
- 事業者等…山村地域で事業や活動を行う個人や団体



第3条(基本方針)

- 山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生を推進する、基本となる5つの方針を定めています。

第4～7条(各主体の役割)

- 市の責務や市民、山村住民、事業者等の役割を定めています。

第8条(計画の策定及び施策の推進)

- 市は、計画を策定し、総合的かつ計画的に施策を推進するものとします。
- 施策の推進に当たっては、山村地域の現況や地理的特性を考慮するものとします。
- 計画は、必要に応じて内容を見直すものとします。
- 山村地域に準ずる地域に関し、計画に準じて推進するものとします。
- 施策を総合的に推進するため、体制の整備に努めるものとします。

第9条(実施状況の公表)

- 市は、施策の実施状況を公表するものとします。

山村条例について詳しくはこちらから



山村条例が目指すもの

- ① 共働*による住み続けられる山村地域づくり
- ② 地域資源等を生かした山村の活力・魅力の向上
- ③ 都市と山村の共生による豊かなまちの実現



*共働…共通の目的を実現するために多様な主体がともに行動すること

山村条例の基本方針 (第3条)

- ① 山村の価値が市民にとって暮らしの豊かさにつながることを理解し、次の世代につなぐこと
- ② 山村に係る多様な価値観や生活様式、関わり方を尊重すること
- ③ 多様な主体と共働による地域づくりを推進し、担い手となる人材を育成すること
- ④ 山村住民の自治を尊重しつつ、都市と山村や各地域が互いにつながり、支え合うこと
- ⑤ 地域資源を生かした地域内の経済循環も高めること

私たちの役割 (第4～7条)

市民の役割



山村の価値が市全体の豊かな暮らしにつながることを理解する



山村の価値を知る、見る、体験することで学ぶ



共働により山村を守り、山村の価値を暮らしに生かす



都市と山村の住民が交流し支え合う

山村住民の役割



地域に愛着と誇りを持ち、山村の価値を次の世代につないでいく



空き家、農地、森林が地域の共有財産であることを認識し、放置しないようにする



都市と山村の多様な関わり方を認め、山村地域へ移住する人や関わる人を受け入れる

事業者等の役割



地域経済の活性化、防災や減災、景観維持などのまちづくりに係る役割を担い、山村地域の暮らしを支える

市(行政)の責務

- ① 山村住民の自治を尊重しつつ、共働によるまちづくりを推進する
- ② 山村の価値が豊かな暮らしの礎であることについて理解が深まるよう市民に周知する
- ③ 都市と山村の交流を促進する
- ④ 山村地域の安全安心な暮らしを維持するため、その基盤づくりを担う
- ⑤ 山村地域の暮らしの土台となる事業者等の活動を支える